

エンドウ新品種 ‘みなべ短節間1号’ の育成経過と特性

1. はじめに

本県の実エンドウは、出荷量が全国1位の品目であり、日高地域を中心に産地が形成されています。しかし、主要品種である‘きしゅううすい’は、ハウス栽培での草丈が高く、誘引や収穫などの作業性の悪いことが課題でした。そこで、草丈の低い短節間実エンドウ品種の育成に取り組み、現地で発見された‘みなべ短節間1号’を有望品種として選定したので、育成経過と特性について紹介します。

2. 育成経過

‘みなべ短節間1号’は、2015年に日高郡みなべ町の‘きしゅううすい’栽培ほ場の中で発見された短節間品種です。JA紀州、日高振興局と協力し、2016年、2017年の2カ年に渡り特性調査に取り組み、‘きしゅううすい’に比べて草丈が低く、莢の外観が同等であることを確認し、有望品種として決定しました。そして、2018年12月に、発見ほ場園主の大野光男氏が‘みなべ短節間1号’と命名し、品種登録出願がなされ、2019年3月に出願公表となりました。

3. 品種特性

- (1) 主枝長、節間長が‘きしゅううすい’の約75%と短く、草丈が低いです(表1)。
- (2) 初花房節位が‘きしゅううすい’よりもやや高く、開花開始時期、収穫開始時期がやや遅い傾向です(表2)。
- (3) ハウス栽培での収量は、‘きしゅううすい’に比べると、初期に少なく、後半に多い傾向があります(表2)。
- (4) 莢の外観は、‘きしゅううすい’と同等です。また、莢の大きさは、‘きしゅううすい’と同等かやや小さいです(データ省略)。

表1 ‘みなべ短節間1号’の主枝長と節間長

品種	主枝長 ^z (cm)	節間長 ^x (cm)
みなべ短節間1号	368(72) ^y	8.3(73)
きしゅううすい	514(100)	11.4(100)

注) 播種日：2017年9月20日。開花促進処理なし。
^z2018年3月26日に測定。^y‘きしゅううすい’対比(%)。
^x初花房上下5節間の平均節間長。

表2 ‘みなべ短節間1号’の初花房節位、開花、収穫開始日および時期別収量

品種	初花房 ^z 節位 (節)	開花 ^y 開始日 (月/日)	収穫 ^x 開始日 (月/日)	時期別収量(kg/10a) ^w					合計
				12月	1月	2月	3月	4月	
みなべ短節間1号	28.3	11/28	2/15	0	9	674	1183	922	2788
きしゅううすい	27.9	11/23	2/3	0	84	495	981	614	2174
矢田早生うすい	9.7	10/22	12/17	242	544	472	1011	704	2973

注) 播種日：2017年9月20日。試験区：1区10株(‘矢田早生うすい’8株)の2区制。開花促進処理はなし。
^z最初の花房が発生した節位。^y初めて開花が認められた日。^x初めて莢を収穫した日。^w調査期間：収穫開始から2018年4月30日。

4. おわりに

‘みなべ短節間1号’は、草丈が低いため、収穫作業の短縮等につながる省力性品種として産地から期待されています。今後、産地への導入に向けて関係機関と協力し、栽培技術の確立、栽培用種子の準備を進めていきます。(育種部 田中 寿弥)